

12/9 Wed.

第604回 定期演奏会
サントリーホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT No.604/ Suntory Hall 19:00

指揮
Principal Conductor
ピアノ
Piano
コンサートマスター
Concertmaster

モーツァルト
MOZART

[休憩]
[Intermission]

ブルックナー
BRUCKNER

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5
SEBASTIAN WEIGLE
岡田 奏 -p.6
KANA OKADA
長原幸太
KOTA NAGAHARA

ピアノ協奏曲 第25番 八長調 K.503 [約30分] -p.11
Piano Concerto No.25 in C major, K. 503
I. Allegro maestoso
II. Andante
III. Allegretto

交響曲 第6番 イ長調 WAB 106 [約54分] -p.12
Symphony No. 6 in A major, WAB 106
I. Maestoso
II. Adagio : Sehr feierlich
III. Scherzo : Nicht schnell
IV. Finale : Bewegt, doch nicht zu schnell

※当初の発表から出演者が一部変更されました。

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：アフラック

12/16 Wed.

SHINRYO Presents <第九>特別演奏会
東京芸術劇場コンサートホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by SHINRYO / Tokyo Metropolitan Theatre 19:00

指揮
Principal Conductor
ソプラノ
Soprano
メゾ・ソプラノ
Mezzo-Soprano
テノール
Tenor
バリトン
Baritone
合唱
Chorus
合唱指揮
Chorusmaster
コンサートマスター
Concertmaster

【第1部】<オルガン独奏>
オルガン
Organ

ベートーヴェン
Beethoven

J. S. バッハ
J. S. Bach

[休憩]
[Intermission]

【第2部】<第九>
ベートーヴェン
Beethoven

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5
SEBASTIAN WEIGLE
森谷真理 -p.6
MARI MORIYA
ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー -p.7
TANJA ARIANE BAUMGARTNER
AJ・グルッカート -p.7
AJ GLUECKERT
大沼 徹 -p.8
TORU ONUMA
新国立劇場合唱団 -p.8
NEW NATIONAL THEATRE CHORUS
富平恭平 -p.9
KYOHEI TOMIHIRA
長原幸太
KOTA NAGAHARA

三原麻里 -p.9
MARI MIHARA

<笛時計のための5つの小品>から
“スケルツォ” “アレグロ” [約5分] -p.17
“Scherzo” “Allegro” from 5 Pieces for Musical Clock

トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 [約10分] -p.17
Toccata & Fugue in D minor, BWV 565

交響曲 第9番 二短調 作品125 <合唱付き> [約65分] -p.14
Symphony No. 9 in D minor, op. 125 “Choral”
I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
II. Molto vivace
III. Adagio molto e cantabile
IV. Presto – Allegro assai

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
特別協賛：新菱冷熱工業株式会社
協力：アフラック
事業提携：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

※本公演では日本テレビ「読響シンフォニックライブ」の収録が行われます。

12/18 Fri.

第637回 名曲シリーズ
サントリーホール 19時開演
POPULAR SERIES No.637/ Suntory Hall 19:00

12/19 Sat.

第233回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SATURDAY MATINÉE SERIES No.233 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/20 Sun.

第233回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SUNDAY MATINÉE SERIES No.233 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/23 Wed.

第28回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT IN OSAKA, No.28 / Festival Hall 19:00

12/26 Sat.

第124回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14時開演
YOKOHAMA MINATO MIRAI HOLIDAY POPULAR SERIES No.124 / Yokohama Minato Mirai Hall 14:00

指揮
Principal Conductor

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5
SEBASTIAN WEIGLE
※他の出演アーティストは前ページをご参照ください。

ベートーヴェン
Beethoven

交響曲 第9番 二短調 作品125 〈合唱付き〉 [約65分] -p.14
Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"
※詳細は前ページをご参照ください。

※本公演には休憩がございません。あらかじめご了承ください。
*No intermission

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
共催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）（12/19、20）
協賛：非破壊検査株式会社（12/23）、大和ハウス工業株式会社（12/23）、
NTTコミュニケーションズ株式会社（12/18、19）
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会（12/18、19、20、26）
協力：コジマ・コンサートマネジメント（12/23）、横浜みなとみらいホール（12/26）

指揮

セバスティアン・ヴァイグレ
(常任指揮者)

SEBASTIAN WEIGLE, Principal Conductor

待望の来日！
常任指揮者ヴァイグレが贈る
ドイツ・プログラム&歓喜の歌



©読響

昨年4月に常任指揮者に就任し、読響に本場ドイツの風を吹き込んでいるマエストロ。本来は今年3月および7月に来日する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により叶わなかった。今回、1年3か月ぶりに待望の来日を果たし、得意とするブルックナーやベートーヴェンで腕を振るう。

1961年ベルリン生まれ。82年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、巨匠バレンボイムの勧めで指揮者に転向。2003年にフランクフルト歌劇場でR. シュトラウス〈影のない女〉を振り、ドイツのオペラ雑誌『オーパンヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までリセウ大劇場の音楽総監督を務め、ベルク〈ヴォツェック〉やワーグナー〈タンホイザー〉など数々の名演奏を繰り広げた。07年にはワーグナー〈ニュルンベルクのマイスタージンガー〉でバイロイト音楽祭にデビュー。11年まで指揮し、世界的注目を浴びた。08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。11年に同歌劇場管が『オーパンヴェルト』誌の「年間最優秀オーケストラ」に選ばれ、15年と18年にも同歌劇場が「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。

これまでに、メトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場などに客演を重ねるほか、ザルツブルク音楽祭、ベルリン放送響、ウィーン響などを指揮し、国際的に活躍している。読響には16年8月に初登場。オペラでは17年の東京二期会のR. シュトラウス〈ばらの騎士〉、19年の同〈サロメ〉（第28回三菱UFJ信託音楽賞受賞）で共演し、いずれも好評を博した。

12/9
定期

12/16

12/26
〈第九〉公演

Maestro

12/9
定期

Artist



©Kazashito Nakamura

ピアノ

岡田 奏

KANA OKADA, Piano

瑞々しい感性と多彩な表現力で聴衆を魅了する新鋭ピアニスト。函館市生まれ。8歳でリサイタル・デビュー。15歳で渡仏し、パリ国立高等音楽院を最優秀で卒業・修了。アーティスト・ディプロマ科を経て、欧州をはじめ国際的に活動している。2013年にプーランク国際コンクールと仏ポントワーズのピアノ・キャンパス国際コンクールで優勝。16年エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナリスト。小林研一郎、尾高忠明、広上淳一、バーメルト、オルソップらの指揮でベルギー国立管、シモン・ポリバル響、東京響、日本フィル、京響、札響などと共演している。サントンジュ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネTOKYO、パリのショパン・フェスティバルなどに出演。18年、デビューCDをリリースし好評を博す。読響とは19年5月以来、2度目の共演。

12/16

12/26
〈第九〉公演

Artist

国内外の主要歌劇場で活躍し、日本を代表するソプラノ。栃木県出身。武蔵野音楽大学卒業、同大学院およびマネス音楽院修了。2006年レヴァイン指揮〈魔笛〉夜の女王で鮮烈なメトロポリタン歌劇場デビューを飾り、10年から14年までリンツ州立劇場の専属歌手を務めた。ライブツィヒ歌劇場、シアトル・オペラ、バーゼル歌劇場、フランダース・オペラなどで活躍。日本では、日生劇場〈後宮からの逃走〉コンスタンツェ、東京二期会〈ばらの騎士〉元帥夫人、同〈蝶々夫人〉題名役などを務め、19年のヴァイグレ指揮〈サロメ〉、今年の日生劇場〈ルチア〉でも題名役を演じ絶賛された。19年11月「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」で国歌独唱を務め注目を浴びた。小山評定ふるさと大使。二期会会員。



©Make up Sponsored by Jane Iredale

ソプラノ

森谷真理

MARI MORIYA, Soprano



©Luigi Caputo

メゾ・ソプラノ

ターニャ・アリアーネ・
バウムガルトナーTANJA ARIANE BAUMGARTNER,
Mezzo-Soprano

豊かな歌声で世界各地のオペラハウスで活躍する実力派。ドイツ出身。カールスルーエ音楽大学とウィーン音楽院で学ぶ。フランクフルト歌劇場の専属歌手として、〈カルメン〉題名役、〈ドン・カルロ〉エボリ公女、〈影のない女〉乳母、ライマン作曲〈メデア〉のドイツ初演などで成功を収めた。この他、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラなどに出演。17年のパイロイト音楽祭で〈ラインの黄金〉〈ワルキューレ〉フリッカ、18年ザルツブルク音楽祭でヘンツェ作曲〈バッカスの巫女〉アガウエ、20年同音楽祭で〈エレクトラ〉クリテムネストラで好評を博す。21年にはウィーン国立歌劇場で〈サロメ〉ヘロディアス、〈ローエン格林〉オルトルートを歌う。読響初登場。

“明快で繊細なテノール”（ニューヨーク・タイムズ紙）と絶賛される俊英歌手。1986年アメリカ生まれ。サンフランシスコ音楽院で学ぶ。2015年にフランクフルト歌劇場での〈ルサルカ〉王子で欧州デビューを果たし、17年にはネゼ=セガン指揮の〈さまよえるオランダ人〉エリックでメトロポリタン歌劇場にデビューした。これまで、ヴァイグレをはじめ、カンブルラン、デ・ワールト、マイスターらの指揮で、グラインドポーン音楽祭、サンフランシスコ歌劇場、ミネソタ歌劇場などで聴衆を魅了している。現在、フランクフルト歌劇場の専属歌手として活躍中。また、20年1月には、ミルガ・グラジニーテ=ティーラ指揮でバーミングラム市響のマーラーの交響曲第8番のソリストを務め、好評を博した。読響初登場。



©Barbara Aumuller

テノール

AJ・グルッカート

AJ GLUECKERT, Tenor

12/16

12/26

〈第九〉公演

Artist

12/16

12/26
〈第九〉公演

Artist

12/16

12/26

〈第九〉公演

Artist



バリトン

大沼 徹

TORU ONUMA, Baritone

スケールの大きな華のある歌唱で絶賛されるバリトン。福島県出身。東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業、同大学院修了。大学院在学中、ベルリン・フンボルト大学へ留学。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。2006年、二期会ニューウェーブオペラ〈ウリッセの帰還〉で主演しデビューを飾る。これまで東京二期会オテロ〈イアーゴ〉、〈トリスタンとイゾルデ〉クルヴェナル、〈魔弾の射手〉オットカール侯爵、〈フィデリオ〉ドン・ピツァロや、新国立劇場〈沈黙〉ヴァリニアーノ、日生劇場〈コジ・ファン・トゥッテ〉ドン・アルフォンソなどで好評を博した。読響とは19年のヴァイグレ指揮〈サロメ〉ヨカナーン、今年の日生劇場〈ルチア〉エンリーコを含め、これまでに多数共演している。二期会会員。

合唱

新国立劇場合唱団

NEW NATIONAL THEATRE CHORUS, Chorus

1997年にオープンした新国立劇場で、オペラ公演のための合唱団として活動を開始。厳正な審査によって選ばれるメンバーは100名を超え、新国立劇場が上演する多様なオペラ公演を通じて、年々レパートリーを増やしている。個々のメンバーは高水準の歌唱力と優れた演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量を誇る。その確かな実力で、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家をはじめ、国内外のメディアからも高い評価を得ている。読響とは2007年以降、年末の〈第九〉公演をはじめ数多く共演。特にラヴェル〈ダフニスとクロエ〉、ストラヴィンスキー〈詩篇交響曲〉、メシアン〈アッシジの聖フランチェスコ〉、ショスタコーヴィチ〈バビヤール〉では見事な歌唱を披露し、絶賛を博した。



合唱指揮

富平恭平

KYOHEI TOMIHIRA,
Chorusmaster

東京都出身。東京芸術大学指揮科卒業。高関健、田中良和、小田野宏之の各氏に師事。東京二期会、新国立劇場、藤原歌劇団、日生劇場などのオペラ公演で副指揮、合唱指揮、コレベティートルを務めた。これまでに、〈フィガロの結婚〉〈椿姫〉〈パルジファル〉〈カルメン〉〈ばらの騎士〉〈エフゲニー・オネーギン〉〈ルル〉など、多数のオペラを手がけてきた。2017年の〈アッシジの聖フランチェスコ〉、19年の〈バビヤール〉でも新国立劇場合唱団の合唱指揮を務め、好評を博した。群馬響、東京シティ・フィル、東京フィル、東京響などにも客演。東京二期会音楽スタッフ、新国立劇場音楽スタッフなどを経て、19年4月に新国立劇場合唱指揮者に就任。洗足学園音楽大学非常勤講師。

東京都出身。東京芸術大学音楽学部オルガン専攻および同大学院修了。河野和雄、今井奈緒子、廣江理枝各氏に師事。平成25年度文化庁新進芸術家海外研修制度の研修員としてフランスへ派遣され、エルワン・ル・ブラド氏のもとで研鑽を積む。2012年、第23回シャルトル国際オルガンコンクールにて優勝。フランスを中心に欧州各地のオルガン・フェスティバルに招待され、演奏ツアーを行う。帰国後、ソロの演奏の他に、東京フィルや東京響と共演するなど、国内外で活躍を続けている。現在、所沢市民文化センターミュージズ第4代ホールオルガニスト、東京芸大オルガン専攻教育研究助手、東洋英和女学院大学生涯学習センター講師を務める。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。



オルガン

三原麻里

MARI MIHARA, Organ

12/16

12/26

〈第九〉公演

Artist

12/16

〈第九〉公演
【第1部】

Artist

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第25番 八長調 K.503

1781年、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～91）は故郷であるザルツブルクの司教と決裂、ウィーンに腰を落ち着ける。ハプスブルクの帝都には高い音楽の素養を持った貴族たちが集まっており、モーツァルトはたちまちのうちに人気を博し、予約演奏会にも数多くの名士たちが名を連ねた。モーツァルト自身が独奏者となり華麗な技巧を披露しつつ、シンフォニックなオーケストラと自在な対話を繰り広げるピアノ協奏曲は中でも注目の的で、傑作が次々と生まれている。1784年から3年間はその絶頂期にあたり、86年にはK.488、491、503の3曲が発表された。つまり本作は絶頂期の傑作協奏曲群の最後を飾るものである。

モーツァルトはあらかじめ断片を書き溜め、必要に応じて加筆し完成させるという方法をしばしばとった。この曲も前年に着手され、待降節に市のカジノで行われた予約演奏会のために完成されたとみられる。1780年代後半になるとウィーン社会には不況が訪れ、予約演奏会も開かれなくなってしまう。モーツァルトもこの後、世を去るまでの5年間にこのジャンルには2曲しか書いていない。

第1楽章 アレグロ・マエストロ オーケストラの力強い総奏は影のようにまどわる短調の呼応を持つ。オーケストラのシンフォニックな展開にピアノはすりと入り込み、たちまち主演の座を奪って新しい旋律を紡ぐ。管楽器の扱いもチャーミングで、全てがエレガントに運ばれていく。

第2楽章 アンダンテ 木管楽器が歌いだす息の長い第1主題と、弦楽器に現れる躍動感のある第2主題がコントラストを成す。

第3楽章 アレグレット 軽快なロンド主題がヴァイオリンに現れ、オーケストラに展開された後、ピアノがこれを引き継ぎ自在に展開させていく。新しい旋律を目まぐるしく提示しながら駆け抜ける。筆の乗った才気^{かんぱつ}煥発な音楽だ。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1786年完成／初演：1786年12月、ウィーン／演奏時間：約30分

楽器編成／フルート、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦五部、独奏ピアノ

ブルックナー

交響曲 第6番 イ長調 WAB 106

リンツからウィーンに進出したアントン・ブルックナー（1824～96）は、1870年代に入ると第2番（72年）、第3番（73年）、第4番（74年）と、毎年のように新作交響曲を書きおろしている。第5番は第4番完成後、3か月後には着手されたものの、ここから完成のペースが落ちた。初演の機会がなかなか得られなかったこと、演奏されても評判が芳しくなかったこと、周囲から様々な意見が付いたことなどが理由である。ブルックナーは目指す交響曲の形がいかにあるべきか、徹底的に検討した。これは時間のかかる作業であった。第5番は1876年に一度完成するが、すべての点検が終わるのは78年である。第6番の着手は79年の秋になってからだが、第5番の初稿が完成してからそこまでに、第2番（第2稿）、第1番（リンツ稿）、第3番（第2稿）、第4番（第2稿）と全ての旧作に手を入れている。第6番着手後も第4番の終楽章を再度改訂し、また〈テ・デウム〉に取り掛かったこともあって、本作が大きく進捗するのは1880年の夏以降になる。9月27日には第1楽章、11月22日には第2楽章、81年1月17日にはスケルツォと筆を進め、9月3日には全曲が完成した。この間、2月20日には改訂を経た第4番が大成功を収めてようやくウィーンでも認められたから、本作の完成には経験と自信をもって邁進したことだろう。

この曲の価値は、美しい旋律や流麗に進んでいくなじみやすさのみにあるのではない。伽藍のように長大で巨大な第5番と、第7番以降の後期傑作群に挟まれて、規模も一回り小さくやや地味な曲とみられがちだが、実は第6番は徹底した省察と実践の成果なのである。自らの足取りを振り返り、新しい道を開いた転換点として、創作全体においても無視できない位置を占めている。

作品は当初第4番を成功に導いた指揮者ハンス・リヒターに委ねられたが、宮廷歌劇場音楽監督であったヴィルヘルム・ヤーンがウィーン・フィルの演奏会で取り上げることを提案し、82年10月にブルックナーの立ち合いのもと試演が行われた。団員の反応は悪くなく、次シーズンのプログラムに乗せられたが、翌年2月に演奏されたのはアダージョとスケルツォという中間楽章のみだった。ウィーンの保守的な聴衆には難しすぎると判断されたようで、批評も楽想や楽器法についての才能

を認めながらも、全体としては否定的（特にスケルツォ）だった。ブルックナーの生前には全曲初演の機会はなかった。

第1楽章 マエストーソ ヴァイオリンの刻みに乗って低弦に第1主題が差し出され、金管がすぐに受け継いで高揚する。第2主題は幅広い歩みを持ったヴァイオリンの旋律で、綾を作りながら高まっていき、金管の下行音型を中心にした第3主題につなぐ。他のブルックナー作品に特徴的な息の長さとは異なり、言いたいことを間髪入れずに言っていく思い切りの良さが特徴的だ。

第2楽章 アダージョ きわめて厳かに 深々とした弦の歩みにオーボエが絡まる。対位法的な動きを持った弦の旋律が、幸福感に満ちた第2主題を歌うのに対し、第3主題は葬送行進曲のような足取りで進む。

第3楽章 スケルツォ 速くなく ブルックナーの中では最も簡潔なスケルツォである。低弦が刻むリズムに乗って、3連符の特徴的な音型が執拗に反復される。トリオはぐっとテンポを落として弦のピツィカート、続いてホルンが牧歌的な旋律を歌い、第5番の交響曲の主題も引用される。この楽章は初演当時、特に人々に奇異に映ったようで、「馬が騎手を振り切ってしまった」「完全に途方にくれた」などという評言が残っている。

第4楽章 フィナーレ 動きをもって、しかし速すぎず それぞれの主題は金管のファンファーレ風の咆哮やリズムに特徴的なモチーフなどからなり、それらがモザイク状に組み合わせりながら楽節を重ねていく。最後に第1楽章の主題が帰ってきて高らかに結ぶ。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1879～81年／初演：1883年2月11日、ウィーン（第2、第3楽章のみ）、1899年2月26日、ウィーン（全曲）／演奏時間：約54分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦五部

12/16

12/26

〈第九〉公演

Program Notes

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125 〈合唱付き〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)は生涯に九つの交響曲を書いた。そのすべてが交響曲の歴史における輝かしい金字塔であり、とりわけ最後の交響曲第9番〈合唱付き〉はオーケストラに加えて、独唱、合唱までを要する異例の大作となった。以来、後世の多くの作曲家たちは9番目の交響曲を作曲する際に、ベートーヴェンを意識せざるをえなかったはずである。9という数字は交響曲の創作史におけるマジックナンバーといってもいい。

もっとも、ベートーヴェンの交響曲が9曲に終わったのは、たまたまというほかない。ほんのわずかでも作曲家の運命が違っていれば、交響曲第8番や交響曲第10番が最後の交響曲であってもおかしくはなかっただろう。ベートーヴェンの56年あまりにわたる生涯のなかで、交響曲の創作期間は決して長くはない。交響曲第1番が完成されたのは1800年。交響曲第8番は1812年。この12年間に8曲の交響曲が集中的に書かれている。だが、1812年の第8番から1824年の〈第九〉までにはさらに12年間のブランクがある。〈第九〉は季節外れの交響曲と呼びたくなるほど作曲時期が異なっており、もはや書かれなかったかもしれない交響曲が、最後に奇跡的に絞り出されたかのような印象すら受ける。

交響曲第8番から5年後となる1817年、ベートーヴェンはロンドンのフェルディナント・リースから手紙を受け取る。手紙にはロンドン・フィルハーモニー協会のために新作交響曲を2曲書いて訪英してほしいと記されていた。ベートーヴェンはこれをいったんは受諾する。このプランが実現していれば、ベートーヴェンはロンドンで交響曲第9番と第10番を披露していたことになる。

しかし、この訪英が実現することはなかった。ベートーヴェンは後に自身の健康状態のため取りやめざるをえなかったと説明している。加えて、この時期、ベートーヴェンは甥カールの問題に心を砕かなければならなかった。1815年末にベートーヴェンの弟のカスパル・カールが世を去った際、その遺書には9歳の息子カールの共同後見人としてベートーヴェンと母親ヨハンナが指名されていた。甥カールに対して父親としての責任を負うことを望んだベートーヴェンは、ヨハンナはカールの養育者には不適當であると訴え、4年半にわたる法廷闘争に消耗させられるこ

ととなった。1818年にはカールの素行不良による退学処分や、出奔して母親のもとに駆け込むといった事件が起き、独身者ベートーヴェンがよもやの「家庭問題」で翻弄されることになる。当時の日記に心情が綴られている。

「神よ、私が愛しいカールのためによかれと思ってしたことが、他人を苦しめなければならぬこの心の痛みをおわかりでしょう。聖なる御身よ、耳を傾けたまえ。すべての生ける者たちのなかでもっとも不幸なこの私に」

1822年、ロンドン・フィルハーモニー協会からふたたびベートーヴェンに交響曲の作曲依頼が届く。今度こそ9番目の交響曲が書かれることになる。1824年に作品が完成されると、ウィーンの人々からベートーヴェンの新作交響曲をウィーンで初演してほしいという嘆願書が作曲家のもとに届けられた。ベートーヴェンはこれに同意し、ケルトナートーア劇場での初演が決まった。初演では、客席から熱狂的な喝采が寄せられた。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポコ・マエストーソ。神秘的なトレモロから主題の断片が垣間見え、やがて頂点で全貌をあらわす。あたかも混沌から秩序が生まれるかのような劇的な幕開け。

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ。激しく煽り立てるようなスケルツォの間にひなびたトリオがはさまれる。ティンパニの活躍が印象的。

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ。天上の音楽を思わせる長大な緩徐楽章。平安と瞑想はやがて金管楽器の強奏による突然の呼びかけで遮られる。

第4楽章 プレスト〜アレグロ・アッサイ。轟音とともに開始され、先の三つの楽章が回想された後、「歓喜の歌」の主題があらわれる。バス独唱に誘われて、合唱がシラーの詩による「歓喜に寄す」を高らかに歌う。トルコ風行進曲、トロンボーンを伴った荘重な教会音楽風の合唱、二重フーガなど、次々と多様なスタイルを巡りながら、爆発的な終結部へと向かう。 〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1818年頃~24年/初演：1824年5月7日、ウィーン、ケルトナートーア劇場/演奏時間：約65分
楽器編成/フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、トライアングル)、弦五部、独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、合唱

12/16

12/26

〈第九〉公演

Program Notes

12/16

12/26

〈第九〉公演

Program Notes

第4楽章
An die Freude
「喜びに」

訳：金子哲理

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen, und freudenvollere!

おお 友よ この調べではない!
さらに心地よく 喜びにあふれる歌を とともに歌おう!

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

喜び! 神の^{ひかり}閃光 天国の乙女たち!
私たちは 炎に酔いしれて 天国の汝の聖地に 歩を進める!

Deine Zauber binden wieder, Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, Wo dein sanfter Flügel weilt.

時の流れに激しく引き裂かれた者も 神の不思議な力によって 再び結びつき
神の柔らかな翼のある場所で すべての人々は 同胞となる

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!

ひとりの心の友を持つ 心優しい妻を得る
こうした幸福を得た者は 喜びに唱和せよ!

Ja, wer auch nur eine Seele Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle Weinend sich aus diesem Bund!

そうだ、この地上にひとりでも 魂の友を持つ者も とともに歌おう
そして、それが叶わぬ者は 涙とともにこの輪から離れよ

Freude trinken alle Wesen An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur.

すべての被造物は 自然の乳房から喜びを飲み
善人も 悪人も みな 創造主の薔薇の小路をたどる

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

神は ^{くちづけ}接吻と 葡萄酒と そして 死の試練をくぐった友を 与え給うた
虫にさえも神は快樂を与えた そして天使ケルビムは 神の前に立つ

Froh, wie seine Sonnen fliegen Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn, Freudig wie ein Held zum Siegen.

喜びよ 太陽が広い空を 神の定めに従って駆けるように
同胞よ! 自らの道を喜びをもって進め! 英雄が勝利に向かって 走るように!

Seid umschlungen Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! überm Sternenzelt Muß ein lieber Vater wohnen.

^{いだ}抱き合おう! 幾百万の人々よ! この接吻を全世界に!
同胞よ! 星々の彼方に 父なる神は住み給う!

Ihr stürzt nieder, Millionen? Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt! Über Sternen muß er wohnen.

幾百万よ ひれ伏したか? 人々よ 創造主を感じるか?
星々の天幕に 神を求めよ! 星々の彼方に 神は住み給う!

ベートーヴェン

〈笛時計のための5つの小品〉から“スケルツォ”“アレグロ”

笛時計とは一種の自動演奏装置のこと。ふいごから風を送って笛のような音を発音する仕組みを持った装飾的な時計を指す。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)は、親交のあったヨーゼフ・ダイム伯爵からの依頼で、この笛時計のための小品を作曲した。現代でも鳩時計や柱時計など音で時を知らせてくれる時計が生き残っているが、18世紀後半の貴族社会でもこのような演奏機械付き時計が人気を集めていた。本日はこれを本物のオルガンで演奏する。

J. S. バッハ

トッカータとフーガ 二短調 BWV 565

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685~1750)の全作品のなかでも、もっとも広く知られるのが、このトッカータとフーガ 二短調だろう。冒頭部分はあまりに有名。もっとも、この曲がいつどういった経緯で書かれたのかはわかっていない。若々しい情熱がほとばしる楽想はアルンシュタット時代の青春期の作品であるとする見方に合致するが、一方で作品様式の違いからバッハの真作ではないとする説も根強い。重厚で決然としたトッカータにフーガが続く。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

【ベートーヴェン：〈笛時計のための5つの小品〉から】作曲：1799年頃/初演：不明/演奏時間：約5分
【J.S. バッハ：トッカータとフーガ】作曲：不明/初演：不明/演奏時間：約10分

12/16

12/26

〈第九〉公演

Program Notes

12/16

〈第九〉公演
【第1部】

Program Notes